

## 和ナシ人工授粉作業による花粉アレルギー

富山医科薬科大学医学部公衆衛生学教室

寺西 秀豊, 加須 屋実

富山医科薬科大学医学部小児科学教室

五十嵐 隆夫

和ナシ栽培従事者を対象に花粉症に関する疫学調査を実施した結果、アレルギー性症状有症率は約20%認められた。空中花粉調査では、4月から6月にかけて、ナシとスズメノカタビラ花粉が多数検出された。

和ナシ花粉に対する皮膚反応陽性率は5.4%、スズメノカタビラに対する陽性率は31.5%であった。4月から6月の人工授粉作業の期間に一致して、季節性のアレルギー症状が

認められたが、そうした症状の発現は皮膚反応陽性者にのみ限局して認められた。花粉症に罹患している者の血清中に、RAST法により、特異的IgE抗体の存在が証明された。

以上の結果により、和ナシ栽培従事者には、ナシやスズメノカタビラによる職業性アレルギーの存在することが示唆された。こうした健康障害は、最近の日本における農業技術革新と関連した重要な健康問題と考えられる。